

## 平成28年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

本校では平成28年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果について公表することになりました。

教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、6年生は全国学力・学習状況調査、5年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、算数共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は基本的な問題、B問題は思考力を要するような問題です。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

1 児童の実態

(1)学習状況調査結果の推移

	国語			算数		
	5年時	6年時		5年時	6年時	
		A	B		A	B
H24 入学 現5年	62.3 (0.94)			71.4 (1.06)		
H23 入学 現6年	62.3 (1.0)	83.3 (1.15)	73.6 (1.29)	74.0 (1.13)	83.9 (1.08)	48.9 (1.06)
H28 正答率の全国比		(1.14)	(1.27)		(1.08)	(1.04)

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段( )は、県平均を1としての比較。

◎「H28正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

1 学習状況調査の結果から

6年生の全国学習状況調査の結果では、国語科と算数科のA問題（主として知識）B問題（主として活用）とも県平均や全国平均を超えている。特に、国語科においては、県平均、全国平均を大きく超え、B問題でも高い数値を示していた。一方算数科では、県平均や全国平均は超えているものの、各問題においては県平均を下回るものもいくつかあった。「割合の基準量と比較量の関係を理解する」「示されている説明を解釈し、その考えを別の場面に適用し説明する」「単位量当たりの計算で、必要な情報を特定する」等であった。

問題に対する無解答率は、国語科、算数科ともに低く、難しい問題であっても自分なりの考えを書こうという態度が日頃より培われている。

5年生の県学習状況調査の結果では、算数科では県平均を若干超えているものの、国語科では県平均を下回っていた。国語科の観点別に見ると「読む」「書く」の観点については、県よりも高い数値となっているが、「話す・聞く」「知識・理解・技能」が県よりも低い結果となっていた。話の中心に気をつけて聞いたり、分からない点や確かめたい点を質問したりすることや漢字やローマ字の読み書き、慣用句の意味や国語辞典の使い方についての理解がやや不足している。

2 意識調査の結果から

意識調査の結果では、県平均に比べ「決まった時刻に起きる、寝る」「朝食を食べる」等が高かった。また、テレビ視聴時間や、インターネット使用時間が短く、家庭での良い基本的な生活習慣が身につけていることが分かる。

学習については、平日の家庭での学習時間は県と比べあまり変わらないが、土日に塾に通っている児童の割合が低く、土日の学習時間は短くなっている。しかし、読書の時間については、平日、休日ともに県よりも長く、読書によく取り組んでいると言える。

国語科・算数科に対して「好き」と答える児童が昨年より増えている。また「失敗を恐れず、何事にも挑戦する」や「自分には良いところがある」についても昨年より増加し、学習に対する興味や意欲面が向上し、自己肯定感も増していることがうかがえる。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1)授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- 1 「西部型授業」を基本にしながら、主体的な問題解決学習（アクティブラーニング）に取り組ませる。  
それにより、学ぶ楽しさ、できる喜びを味わわせ、学習に対する理解と意欲を高める。  
特に次の点について重点的に取り組む。  
① 「めあて」の提示 ②ノート指導・ワークシートの工夫（書く場の保障） ④話し合い活動 ⑤学習の「まとめ」  
書く場を保障し、図、言葉、式、文章など多様な表現方法で自分の考えを表し、自分の考えをしっかりと持たせる。さらにグループや全体で考えを高め合う言語活動（協働的な学び）を充実させることで、表現力、判断力、思考力を育成する。また、学習のめあてを確実に提示し、授業の最後に「まとめ」活動を取り入れ、学習したことの定着を図る。
- 2 学習の展開や、発問・板書等の工夫をし、授業に臨む。  
【国語科】・・・単元のねらいを明確にした指導。単元に設定されている言語活動を確実に実施する。  
学習用語の習得と活用を図り、国語科における基礎・基本の力を身につけさせる。  
【算数科】・・・「わかる」と「できる」をしっかりとつなげていく。答えを出すまでの過程を大切にする。  
既習事項を活用した自力解決力を大切にし、活用力を高める。  
【理科】・・・自然体験や、実験・観察などの直接体験を重視した授業を行う。また、言語活動との連携を図り、学習したことを新聞等にまとめる表現活動を取り入れる。
- 3 ICT 機器の効果的な利活用を通して、分かりやすい授業作りに努める。  
・デジタル教科書、タブレット PC の利用率を高める。
- 4 学んだ事を活用する場を作り出し、活用力を高める。  
・総合的な学習の中で、国語科や算数科で培った技能を意図的計画的に活用させる。（グラフや図表の活用、手紙、新聞、チラシ等目的に応じた文章表現を取り入れさせる。）  
・パワーアップタイム・・・余剰の時間を利用し、活用力の向上に向けた練習の時間を設定する。  
(4・5・6年生)

### (2)（授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- 1 家庭学習の習慣化や内容の充実を家庭と連携して取り組む。  
①課題（読み、書き、計算）について職員間で共通理解を図る。  
②日記など多様な書く活動の場を設定し、充実を図る。  
③自主学習の奨励（週1回以上の取組）をする。  
④タブレット（スマイル学習・eライブラリ）を利活用する。
- 2 学習のルールについて職員が共通理解し、学習への心構えや物構えについて全校で一貫した学業指導を行う。（チャイムの合図。筆箱の中味、姿勢、話型、聴型）
- 3 早寝、早起き、朝ご飯などの生活習慣を定期的にチェックし、よりよい生活習慣を身に付けさせる。